



2012年12月期 決算説明会

Coca-Cola CJ

コカ・コーラ セントラル ジャパン株式会社

2013年2月14日



目次

- 1. 2012年レビュー
 - 1)当社を取り巻く環境 P.3
 - 2)販売数量実績 P.4～5
 - 3)トピックス P.6
- 2. 2012年連結決算概要 P.7～8
- 3. 2013年事業計画
 - 1)重点6領域における取り組み強化 P.10
 - 2)販売数量計画 P.11～12
- 4. 2013年連結期首予算概要 P.13～14
- 5. 関東4ボトラー社経営統合の概要
 - 1)経営統合の背景・目的 P.16
 - 2)今後のスケジュール P.17

1. 2012年レビュー

✓ 2012年の清涼飲料市場は前年に対し伸長したが、景気の停滞感は続く

◇ 経営環境

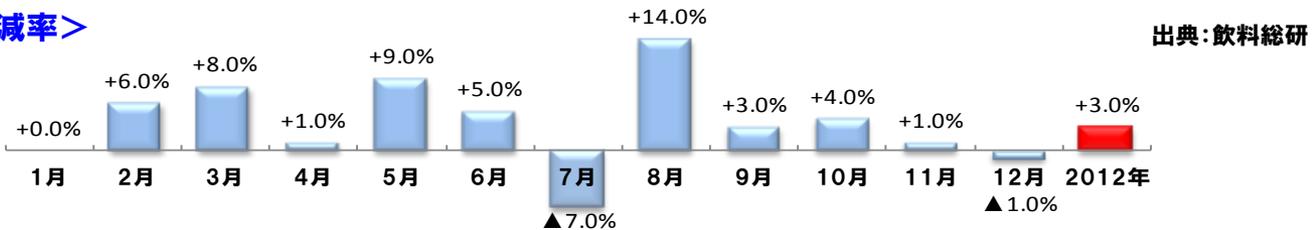
● 長引く景気の停滞感

- ✓ 個人消費の動き低迷
- ✓ 円高による企業収益の悪化
- ✓ 消費税率引上げへの懸念

◇ 全国清涼飲料市場

➢ 飲料市場：東日本大震災の反動と猛暑の影響により、前年を+3.0%上回って着地

<対前年増減率>



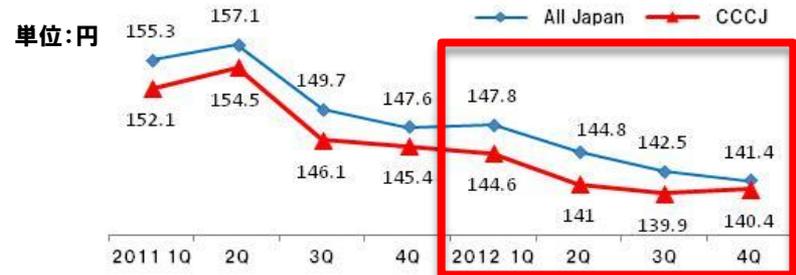
➢ 販売価格：全国市場・当社エリアとも大型PETの下落継続

出典：インテージMBI、PET351-650ml、PET1451-2000ml、
全国手売りチャネル計、1本当り販売価格、
CCCJエリア(神奈川県、静岡県、山梨県、愛知県、三重県、岐阜県)

<小型PETボトル販売価格推移> PET351-650ml



<大型PETボトル販売価格推移> PET1451-2000ml

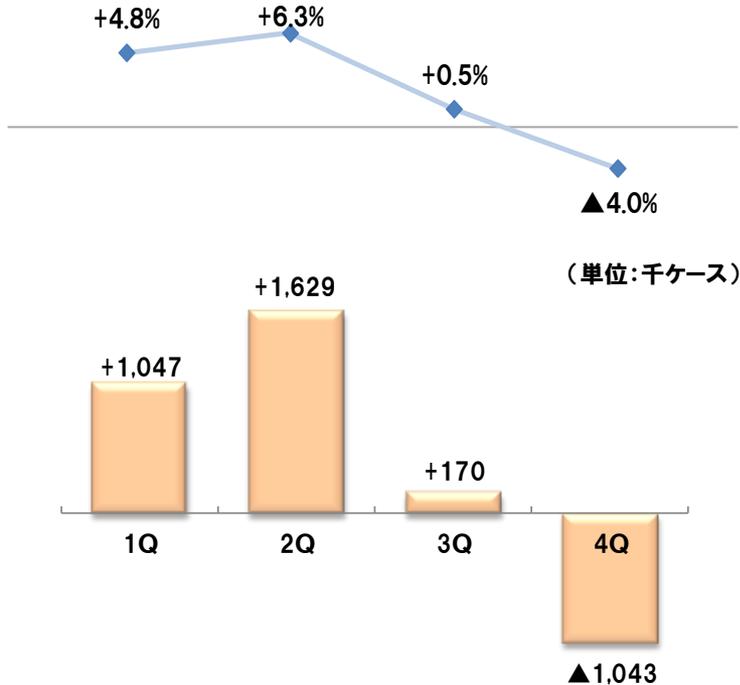


✓ 2012年販売数量実績 108,970千ケース (対前年+1,802千ケース、前年比+1.7%)

◇ 四半期別販売数量前年増減

【販売数量前年増減率】

【販売数量前年増減】



- 第1～3四半期までは営業のシェアアップ活動に加え、東日本大震災の反動もありプラス
- 第4四半期は▲1,000千ケース以上のマイナス

◇ チャンネル別販売数量前年増減

(単位:千ケース)

	前年増減	前年比
スーパー	+1,055	+4.6%
CVS	+256	+2.0%
ドラッグ&ディスカウンター	+696	+10.1%
ディスベンサー	+262	+1.5%
ベンディング	+167	+0.7%
その他	▲634	▲2.8%
合計	+1,802	+1.7%

- その他チャンネルを除き前年に対してプラス
- スーパー、ドラッグ&ディスカウンターチャンネルで大きく伸長

- ✓ 綾鷹が小型PET/大型PETともに大きく伸長し、前年に引き続き、無糖茶シェア拡大に貢献
- ✓ 「太陽のマテ茶」等の新製品の貢献により、その他ブランドが大きく伸長した一方で、重点ブランドである爽健美茶およびコカ・コーラTMは低下傾向にある

(単位:千ケース)

◇ ブランド/パッケージ別販売数量前年増減

	前年増減	前年比	パッケージ別前年増減				
			缶	ボトル缶	小型PET	大型PET	その他
コカ・コーラ RED	▲555	▲3.5%	▲170	▲43	▲138	▲54	▲150
コカ・コーラ ゼロ ※	▲169	▲3.2%	▲46	+0	▲168	▲37	+82
コカ・コーラTM	▲723	▲3.4%	▲216	▲43	▲306	▲91	▲68
ジョージア	+329	+1.8%	▲923	+616	+611	+35	▲9
アクエリアス	▲333	▲2.9%	▲34	+0	▲313	▲51	+65
爽健美茶	▲983	▲13.4%	+5	+0	▲547	▲435	▲7
ファンタ	▲242	▲3.0%	▲308	▲113	+330	▲112	▲40
綾鷹/はじめ	+1,700	+33.1%	▲53	+0	+729	+1,024	▲1
いろはす/森の水	+263	+3.7%	+0	+0	+322	▲56	▲3
重点ブランド	+11	+0.0%	▲1,528	+460	+827	+314	▲64
その他ブランド	+1,792	+6.3%	▲123	▲228	+1,746	+658	▲261
合計	+1,802	+1.7%	▲1,650	+232	+2,573	+972	▲325

※コカ・コーラ ゼロ：ゼロフリー、ノーカロリーコカ・コーラ等を含む

平成24年度省エネ大賞 省エネ事例部門 省エネルギーセンター会長賞

- 2011年の東日本大震災後に日本コカ・コーラ社、ポトラ社と協同によるプロジェクトチームを組成し、まったく新しい節電対策とアクションプラン(※)を作成
 - (※)電力使用ピーク時間帯に3グループ輪番による冷却稼働停止
- 2011年夏に政府目標を上回る節電33%を達成したこと、2012年も同様の活動を継続したこと、また自販機LED照明の積極導入や超省エネ自販機に関する取組みが高く評価された。



輪番冷却運転停止チャート(33%削減パターン)

	9時	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20時
グループA		冷却停止				従来のピークカット時間						
グループB				冷却停止		従来のピークカット時間		冷却停止				
グループC						従来のピークカット時間					冷却停止	

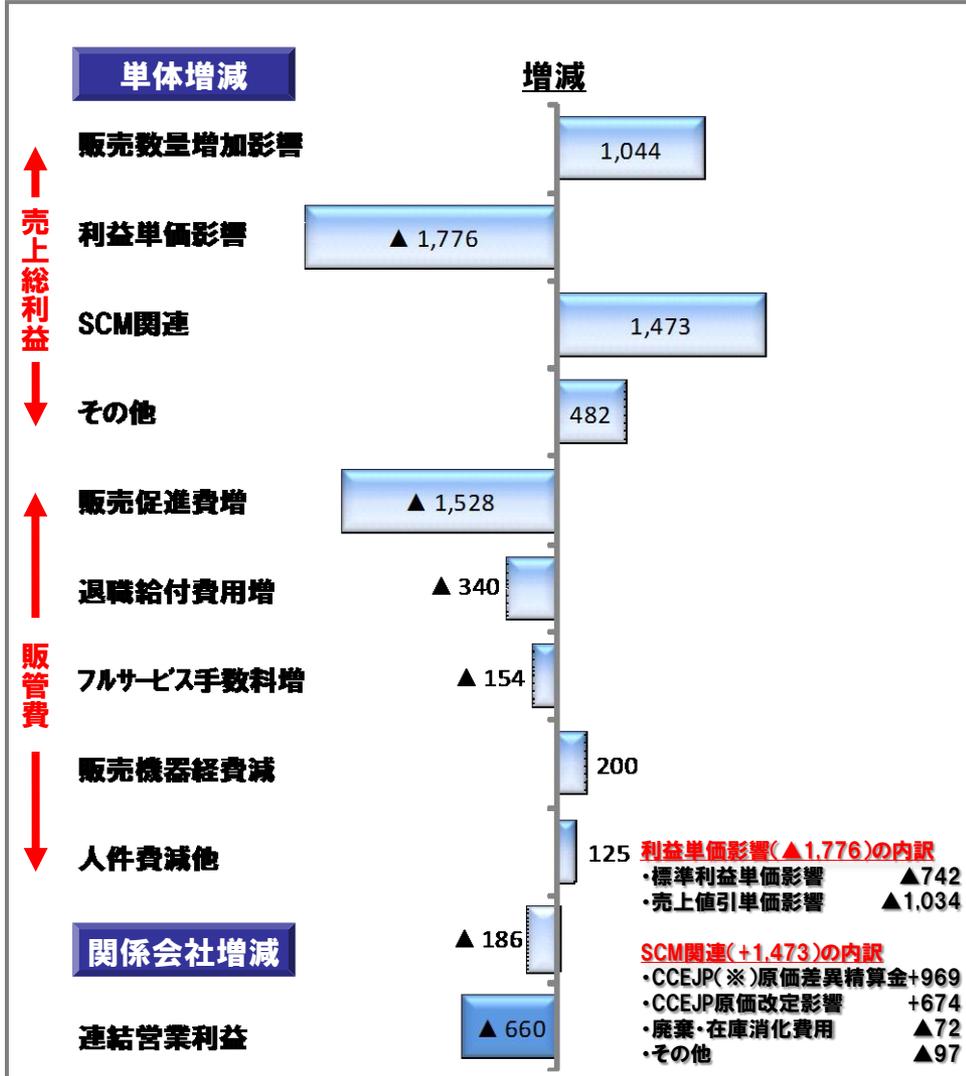
2. 2012年連結決算概要

(単位:百万円)

	2012年	2011年	増減	増減率(%)
販売数量 (千ケース)	108,970	107,167	1,802	1.7
売上高	193,794	193,081	712	0.4
売上総利益	76,626	75,823	802	1.1
営業利益 (利益率 %)	3,387 (1.7)	4,047 (2.1)	▲ 660 (▲ 0.3)	▲ 16.3
経常利益	3,713	3,861	▲ 147	▲ 3.8
当期純利益	1,630	1,309	321	24.6

◇営業利益の対前期増減要因

(単位:百万円)



(※)コカ・コーラ・イーストジャパンプロダクツ(株)の略
関東4ボトラー社で設立した製造子会社

3. 2013年事業計画



当社の最重要課題を分類した6つの重点領域において、各種取り組みを強化する

People & Organization

会社を動かす力
高い意識や意欲のある
人材の育成

Commercial Leadership

市場におけるリーダーシップ発揮
最適なサービスによる
価値の提供

Supply Chain

消費者への製品の安定供給
ワールドクラスサプライチェーン
の構築

Operational Excellence

業務改善の追及
ムダの排除による生産性
の向上

System & Process

新たなシステムの導入
日常業務のプロセス改善

Live Positively

ビジネスの持続的な成長
日々の業務+地域社会への貢献

- ✓ 販売数量計画は対前年+1,730千ケース、前年比+1.6%を計画
- ✓ チャネル別ではスーパー、CVS、ドラッグ&ディスカウンター、ベンディングの成長を計画

販売数量計画 110,700千ケース（対前年 +1,730千ケース、+1.6%）

◇ チャネル別販売数量計画

（単位：千ケース）

	2013年期首		
	計画	前年増減	前年比
スーパー	24,888	+824	+3.4%
CVS	13,842	+478	+3.6%
ドラッグ&ディスカウンター	7,920	+354	+4.7%
ディスペンサー	17,387	▲256	▲1.5%
ベンディング	24,984	+487	+2.0%
その他	21,680	▲158	▲0.7%
合計	110,700	+1,730	+1.6%

（販売数量に食品を含む）



2) ブランド別販売数量計画

- ✓ コカ・コーラTMの露出最大化、綾鷹の継続強化による成長を計画
- ✓ ジョージア、アクエリアス、い・ろ・は・す など重点ブランドの成長を計画

	2013年期首		
	計画	前年増減	前年比
コカ・コーラ RED	15,455	+128	+0.8%
コカ・コーラ ゼロ ※	5,134	+105	+2.1%
コカ・コーラTM	20,589	+234	+1.1%
ジョージア	18,897	+205	+1.1%
アクエリアス	11,745	+503	+4.5%
爽健美茶	6,445	+76	+1.2%
ファンタ	7,873	▲7	▲0.1%
綾鷹/はじめ	7,196	+359	+5.2%
い・ろ・は・す/森の水	7,515	+209	+2.9%
重点ブランド	80,260	+1,578	+2.0%
その他ブランド	30,440	+152	+0.5%
合計	110,700	+1,730	+1.6%

(単位:千ケース)

※コカ・コーラ ゼロ: ゼロフリー、ノーカロリーコカ・コーラ等を含む
(販売数量に食品を含む)

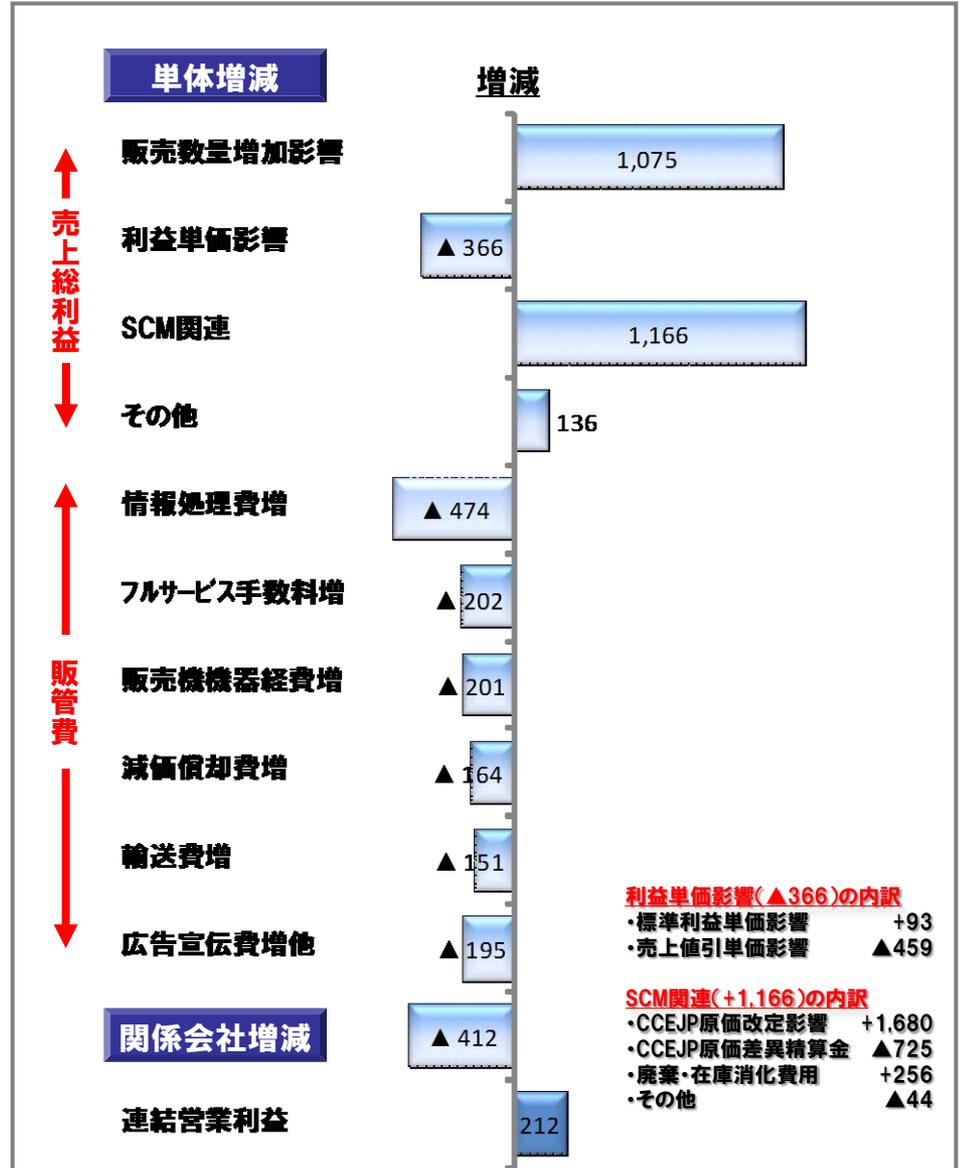
4. 2013年連結期首予算概要

(単位:百万円)

	2013年	2012年	増減	増減率(%)
販売数量 (千ケース)	110,700	108,970	1,730	1.6
売上高	196,000	193,794	2,205	1.1
売上総利益	78,407	76,626	1,781	2.3
営業利益 (利益率 %)	3,600 (1.8)	3,387 (1.7)	212 (0.1)	6.3
経常利益	3,700	3,713	▲ 13	▲ 0.4
当期純利益	1,700	1,630	69	4.2

◇営業利益の対前期増減要因

(単位:百万円)



5. 関東4ボトラー社経営統合の概要

背景と理由

- 需要変化の激しいグローバル市場では、強力な連携体制と柔軟なエグゼキューションが必要である
 - 変化し続ける日本市場では、フレキシブルかつ迅速な対応が求められる
 - 日本国内の1人当たりの清涼飲料消費は、着実に増加している
- 関東市場の競争は激化しているが、様々なビジネス機会が大いに残っている
- メーカー間の協力体制は価格競争を加速させている
- カスタマーの統廃合および小規模小売店の淘汰が続いている
- 消費者のライフスタイル変化により、ニーズの多様化やチャンネル変化が増している

関東4ボトラー社の経営統合による新たなビジネス機会創出

- スケールメリットを活かした競争力の強化および世界各国のボトラーのベストプラクティスの活用
- 全領域における意思決定の迅速化と効率向上
- 消費者とカスタマーに対し差別化されたサービス提供の促進

2012年12月

- 統合契約締結 12/14
- 株式交換契約締結 12/14

2013年2月

- CCEJ統合準備プロジェクトの立ち上げ
- 決算説明会（当社 2/14、三国社 2/15）

2013年3月

- 定時株主総会（4社）

2013年6月

- 三国社上場廃止 6/26

2013年7月

- 株式交換効力発生（4社） 7/1
- 会社分割の効力発生（当社） 7/1

コカ・コーライーストジャパン(株) 設立
売上高世界TOP5のコカ・コーラ ボトラーに